AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2017.9) 平成28年度:30.

A病院における潜在看護職のための復職支援研修の成果と課題

菊地 美登里, 浅利 尚子, 平塚 志保, 三浦 美佳, 三島 玲子, 河地 範子, 上田 順子

A 病院における潜在看護職のための復職支援研修の成果と課題

キーワード：潜在看護職、復職支援、帰属意識

○菊地美登里[1)]・浅利尚子[1)]・平塚志保[1)]・三浦美佳[1)]
三島玲子[1)]・河地範子[1)]・上田順子[2)]
[1)] 旭川医科大学病院　[2)] 元旭川医科大学病院

はじめに

看護職の資格を持ちながら現在離職している看護職（以下潜在看護職）は約 71 万人と言われている。A 病院では、2010 年から看護師・助産師不足の解消と地域医療への貢献を目的に潜在看護職のための復職支援研修を実施している。先行研究では、潜在看護職の再就職への不安として知識･技術の不安が挙げられている。また、単に知識のみでなく看護職としての帰属意識を高めることの重要性が指摘されている[1)]。 今回、研修受講者に対し研修後の就業状況、研修効果、研修に対するニーズについて調査し結果を得たので報告する。

Ⅰ．研究目的

A 病院で実施している復職支援研修の成果と課題、復職支援に関わるニーズを明らかにする。

Ⅱ．研究方法

1．研究期間：平成 28 年 1 月～3 月

2．対象：平成 23 年から平成 27 年の受講者 31 名のうち宛先不明者 4 名を除く 27 名

3．方法：

無記名自記式質問紙調査を実施した。結果は単純集計し自由記載欄は内容の類似性に基づき集計した。

4．研修の概要：＜研修時期＞3 月上旬の 5 日間

＜研修内容＞1 日目（講義）：医療看護の動向、医療安全・感染対策、2 日目・3 日目（技術演習）：救急蘇生法、注射、採血など、4 日目・5 日目（病棟実習）

Ⅲ．倫理的配慮

調査趣旨等を明記した依頼文を調査票とともに郵送し返信をもって同意とした。研究の実施にあたり研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得た。

Ⅳ．結果

回収数 20 名（回収率 74%）

平均年齢 41.2 歳、平均経験年数 9.1 年、ブランク平均年数 10.2 年。受講動機は、「復職に自信がない」「知識・技術の不安」であった。研修後就業した人 19 名、就業後退職した人 3 名であったが次の就業を考えていた。未就業は 1 名であった。復職してよかったことは、「新たなことを学べる」8 名、「充実感・やりがい・働く喜び」7 名、「収入がえられる」5 名、「社会とのつながりができた」4 名。復職後困難を感じたことは、「知識・技術の不足、未熟」14 名、「身体的負担」8 名、「責任の重さ」5 名、「家庭との両立」4 名。研修で役立ったことは、「知識・技術を学べた」12 名、「病棟の状況を知れた」6 名、「復職への気持ちが強くなった」4 名、「復職を目指す仲間と思いを共有できた」2 名。感想・要望は、「復職へ踏み出す機会になった」9 名、「学びの多い研修」8 名、「同じ境遇の人たちと勉強でき励みになった」2 名、「年に 2 回の開催が良い」2 名であった。

Ⅴ．考察

復職者の年齢、経験年数、ブランク年数など背景は様々であったが 80%が就業していた。受講動機、復職後の困難内容から、復職を決意し就業を継続するためには、知識・技術の習得は大きな鍵になっている。

榊ら[2)] は、潜在看護師が復職後に復職した自分になじむまでの過程について､「患者との関わりで得られる前向きな感情」が仕事へのやる気につながると報告している。今回の結果から、復職後、身体的負担や責任の重さ、家庭との両立の困難さを感じながらも、人との関わりや社会とのつながりをもつことで、看護師としてのやりがいや充実感、働く喜びを得ていた。

病棟実習の体験は、かつての看護経験を蘇らせ「私は看護職」という帰属意識を取り戻す機会になった。また、同じ目的を持つ仲間と思いを共有できたことが励みとなっていた。このことから、復職への自信と就業継続に役立つ研修とするためには、技術演習と実習の充実を図るとともに、忘れていた看護経験を想起する機会と環境をつくることが重要であると考える。

Ⅵ．結論

1．復職後、困難を感じながらも看護師としてのやりがいや充実感を得て就業を継続していた。

2．復職支援研修は過去の看護経験を想起する機会と環境づくりが重要である。

引用文献

1．西野実佐緒・岩下由美子・伊藤ヒロコ：潜在看護職を再就業･定着につなげるためのナースセンターの役割―ニーズに寄り添った再就業支援講習会の取り組みを分析して―,看護,Vol.67,No1,94-98,2015

2．榊　茜・深堀浩樹：潜在看護師が復職後に復職した自分になじむまでの過程,日本看護管理学会誌,Vol.18,No2,114-124,2014